

## コユキコムギの高品質安定栽培法

（農試技術部・環境部・県南分場・県北分場）

### 1. 背景とねらい

コユキコムギは平成元年度に県の奨励品種に採用された強短稈・多収品種である。製粉性が優れ、国内産小麦としてはパン適性も高く、本県の主力品種として定着が期待される。

一方、小麦の加工適性は品種特性でもあるが、栽培条件によっても変動することが知られている。ここでは、本県産コユキコムギが実需者から信頼を得るための高品質確保を目的とした栽培法について、2か年の成績を取りまとめて参考に供する。

### 2. 技術の内容

#### （1）高品質確保（特に高蛋白化、開溝粒減少）のための主な要件

パンおよび麺の両方の加工に好適な小麦を生産することを前提条件とする。

項	目	目 標 値	摘 要	
外観的品質	千粒重 (g)	42以上	子実水分12.5%換算値	
	リットル重 (g)	780以上		"
	硝子率 (%)	70以上		"
	開溝粒割合 (%)	10以内	開溝粒 { 開溝部断面がU字状にへこんだ穀粒	
	穂発芽粒割合 (%)	0		
	赤かび粒割合 (%)	0		
その他	製粉歩留 (%)	65以上	水分13.5%換算値	
製粉性 成分 粉の性質	原粒粗蛋白含量 (%)	12以上		"
	60%粉粗蛋白含量 (%)	11以上		"
	最高粘度 (B. U)	700以上		最低でも300以上

#### （2）高品質確保のための栽培法

- ア、できるだけドリル播とし、苗立率を安定させる。
- イ、播種量はドリル播で10a当り6~8kgとする。
- ウ、播種期はできるだけ適期の早播とし、生育量の確保を図る。
- エ、後期追肥を重点とし、高品質化を図る。

<基肥および融雪期追肥>

10a当り窒素成分(kg)	
基 肥	融雪期
4~6	2~4

<後 期 追 肥>

圃場条件 (地力)	10a当り窒素成分(kg)	
	減数分裂期	出穂期
低	4	2~4
中	2	2
高	0	2

オ、個々の栽培法と実施効果の概略は以下の通りである。

栽培法	効果				
	粒の充実	硝子率の向上	開溝粒の減少	蛋白含量の向上	収量増
ドリル播			◎		○
適正播種量への低減	○	○		○	○
適期内早播	○	○	○	○	○
減分期追肥	◎	○		○	◎
出穂期追肥	◎	○	○	◎	

凡 例                      ◎：効果大                      ○：効果あり

### 3. 指導上の留意事項

- （1）堆厩肥・土壌改良資材は十分施用するとともに、基肥や融雪期追肥も地帯別基準量に従って施用する。
- （2）凍上害防止のための踏圧を必ず実施する。

- (3) コキコムギの開溝粒は品種特性であり、外観的に見劣りするが加工適性上問題ない。
- (4) 穂発芽により著しく品質が低下するので、適期収穫に努めるとともに、乾燥も適正かつ速やかに行う。
- (5) コキコムギは赤かび病にやや弱いので、出穂期から乳熟期にかけて長雨が予想される場合は防除を徹底する。
- (6) 連作により品質・収量が低下するので、輪作体系を組む。

#### 4. 試験成績の概要

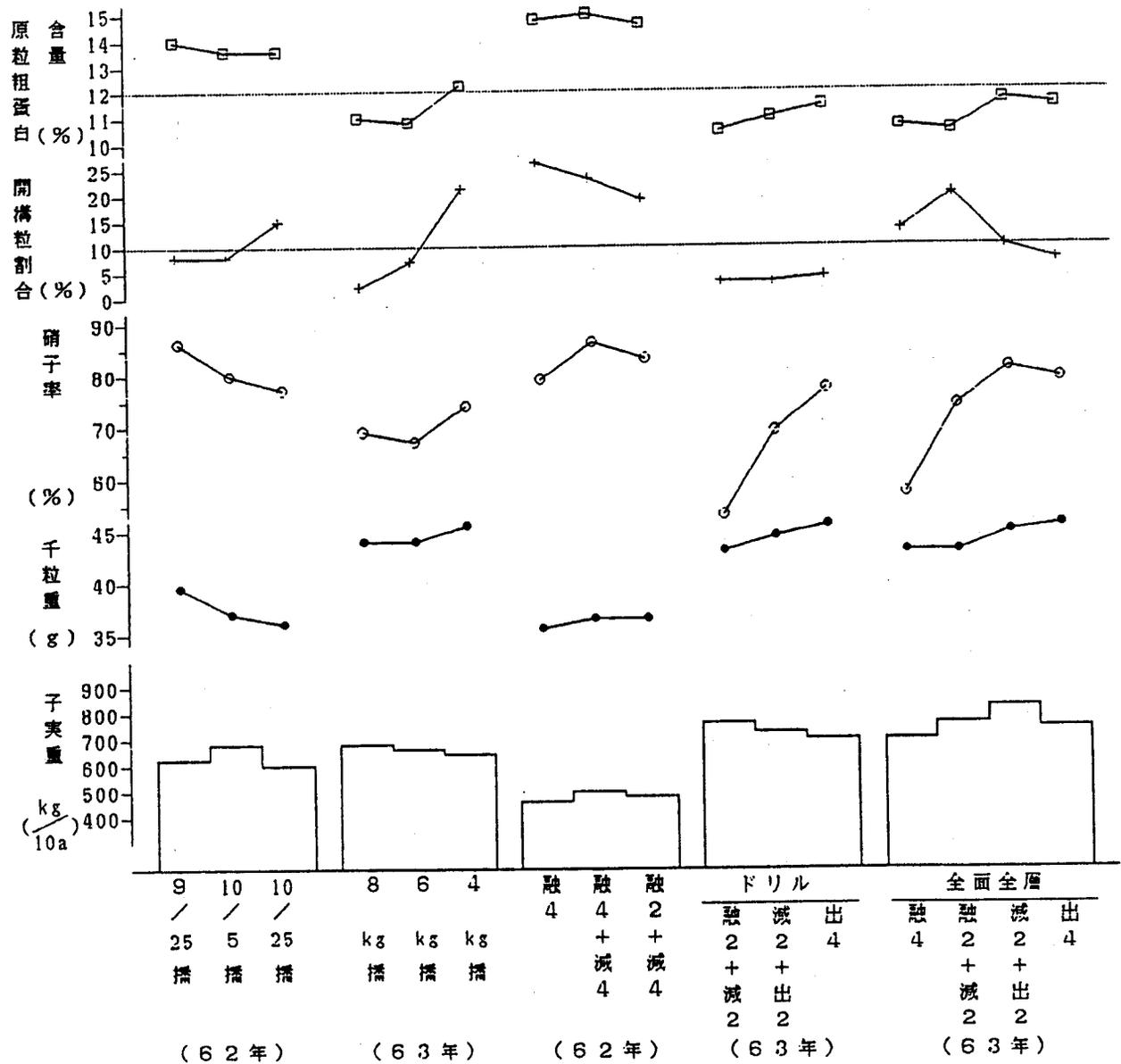


図. 1 播種期、播種量、追肥方法の違いによる品質・収量（本場）